

- 2) 森 和夫 (1994) 奥ハチ高原におけるアカエゾゼミの採集記録, きべりはむし22/1:13.
- 3) 近藤伸一 (1995) アカエゾゼミの採集記録, きべりはむし23/1:30.
- 4) 相坂耕作 (1995) 播磨の昆虫分布資料3 セミ分布資料, 遊蟲千年:80-82.
- 5) 兵庫県 (1995) 兵庫の貴重な自然
- 6) 近藤光宏 (1985) アカエゾゼミ蒜山でも記録される,

- すずむし120:12.
- 7) 竹内幸夫 (1985) アカエゾゼミの思い出, みちしるべ5:18.
 - 8) 田村昭夫 (1993) アカエゾゼミを採集, ゆらぎあ11:23.
 - 9) 奥谷慎一 (1976) 県下のセミ, 新・兵庫の自然, のじぎく文庫, 神戸.

扇ノ山のダイセンオサムシと ヒメオサムシについて (1)

永幡 嘉之

1. はじめに

扇ノ山 (1310m) は, 兵庫県と鳥取県の県境に位置する山である。この山に分布している小型のオサムシは, これまでダイセンオサムシであろうと考えてきたが, 鳥取市あるいは美方郡浜坂町周辺のダイセンオサムシは大部分が黒色であるのに対して, 扇ノ山では暗銅色の個体が大半を占めることが気にかかっていた。自分では積極的な調査もしないまま時が流れたが, 1995年1月に足立義弘氏より過去に採集された標本を譲り受けることができた。それらの3頭の明るい銅色の個体はヒメオサムシであった。ヒメオサムシの分布は氷ノ山付近まで思い込んでいたため, 扇ノ山でヒメオサムシが採集されたことは意外であった。一方, 麓の肥前畑で採集したものはダイセンオサムシであった。

狭い地域に両種が分布していることが判明したので, 1995年は正確な分布を知りたいと考え, 3度にわたってトラップを設置した。結果はあまり芳しいものではなかったが, いくつかの地点でいずれかの種を採集することができた。まだ分布の接点, あるいは混棲場所の有無などは不明のままだが, これまでに判明した知見をまとめて今後の調査の踏み台にしたいと考えたので, ここに報告することにした。

報告に先立ち, 貴重な標本を貸与あるいは提供して頂いた谷角素彦氏 (茨木市), 足立義弘氏 (京都市), 黒井和之氏 (温泉町), また調査に協力して頂き記録の提供を受けた川端知江氏 (鳥取市) に厚く御礼申し上げる。

2. 採集記録

鳥取県側の1例以外はすべて兵庫県美方郡温泉町であるので省略した。

ダイセンオサムシ *Carabus daisen*

蒲生峠 alt. 340m, 1♂, 14-VI-1986, 足立.

海上 alt. 400m, 1♀, 14-VI-1986, 黒井.

岸田花口 alt. 360m, 1♀, 22-V-1992, 永幡.

岸田霧ヶ滝入り口 alt. 420m, 1♀, 30-V-1992, 永幡.

岸田菅原 alt. 500m, 1♂1♀, 15-VI-1986, 黒井; 1♀, 4-VII-1986, 黒井.

岸田肥前畑 alt. 580m, 1♂, 23-V-1994, 永幡.

扇ノ山畑ヶ平 (高原上) alt. 980m, 1♂, 2-VII-1995, 永幡.

扇ノ山上山高原 alt. 920m, 1♀, 2-VII-1995, 永幡.

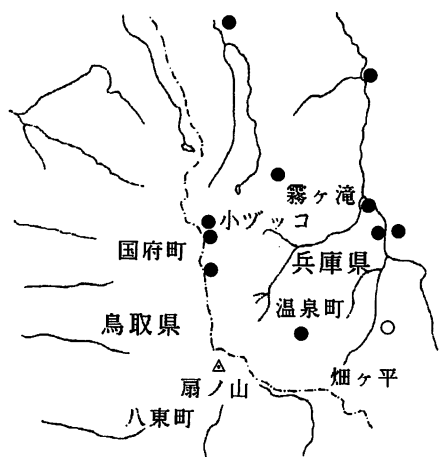
扇ノ山小ヅッコ alt. 1000~1100m, 1♂, 2-VI-1984, 谷角; 1♀, 1-VII-1984, 谷角; 1♀, 15-IX-1984, 谷角; 1♂, 26-VII-1986, 山本一幸.

小ヅッコ (小ヅッコ小屋付近) alt. 1080m, 2♀♀, 7-VI-1995, 川端.

小ヅッコ (雨滝からの登山道との合流点) alt. 1100m, 2♀♀, 2-VII-1995, 永幡.

小ヅッコ (大石からの登山道との合流点) alt. 1160m, 1♂2♀♀, 2-VII-1995, 永幡.

鳥取県岩美郡国府町雨滝 alt. 600m, 1♀, 6-VI-1995, 川端.



扇ノ山におけるダイセンオサムシとヒメオサムシの記録地点

●...ダイセンオサムシ ○...ヒメオサムシ

ヒメオサムシ *Carabus japonicus*

扇ノ山畑ヶ平（林道中腹の国有林入り口付近）alt. 800 m, 1♂2♀♀, 10-VII-1986, 足立；1♂1♀, 29-VII-1995, 永幡；1♀, 1-X-1995, 永幡。

3. 両種の形態について

前項で記録を挙げた扇ノ山産のダイセンオサムシ5♂12♀♀のうち、背面が黒色のものは蒲生峠産の1♂と小ヅッコ産の1♀♀のみであり、他の15頭はわずかに銅色を帯びている。平野部のダイセンオサムシはほぼ黒色であり、銅色型は極めて少ないことから、色彩面では特異であるといえる。ただ、色調はいずれも暗く、同地に産するマヤサンオサムシの銅色型のような明るい色の個体

は採集していない。足の腿節より先はいずれも完全な黒色で、体長は20～22mm。

一方、ヒメオサムシの方は採集個体がわずか6個体のみであるが、明るい銅色である。むしろマヤサンオサムシに似ており、色彩面での区別は困難である。強い緑色光沢を帯びた♂が1個体みられた。黒色型は採集していないが、存在することが予想される。足の腿節より先は赤褐色を帯びている。体長は18～20mm、ダイセンオサムシよりもひと回り小型である。

以上の点を総合すれば、この地域においては両者を外観的に区別することも困難ではない。

4. これまでに分かったこと

これまでは両種が同一地点で採集されたことはない。小ヅッコから山頂にかけての稜線、あるいは北に続く尾根筋に分布している種はダイセンオサムシ1種と思われる。しかし、畑ヶ平では比較的近い地点で両種を採集しており、なだらかな高原には顕著な地理的障害も見いだせない。一部地域で混棲している可能性もある。畑ヶ平上部のブナ林にはまだトラップを設置していないが、山頂に向かう登山道の他に、県境から東（仏ノ尾方面）にも林道が伸びており、入山しやすくなっている。林道が鳥取県との県境を横切る地点の道路脇の草地に2度にわたってトラップをかけたが、1個体も入らなかった。設置する環境は、畑地や林道脇よりもブナ林の林床の方が良いように思われた。

現時点では採集地点も採集個体数も少なすぎる。ひとつの山系とはいえ、両種の分布を知るためにはこれからも何度も足を運ぶ必要がありそうだ。